

京都市ツキノワグマ対策連絡会議 摘録

1 日 時 令和7年11月5日（水）午前8時45分～午前9時15分

2 場 所 分庁舎第4～6会議室

3 出席者 名簿参照

4 主な内容

【猪田政策監（産業観光局）】

既にご承知のとおり、全国的にクマによる人的被害が発生し、連日、報道されている。

京都市においても、本年10月に入り、ツキノワグマの目撃情報が多く寄せられ、取組の充実・強化が必要な状況となっており、松井市長の指示を受け、皆様と情報を共有し、京都市として対策を進めていくために本日の会議を開催するもの。

【宿院室長（産業観光局）】

〔資料に基づき説明（略）〕

- 本市におけるツキノワグマの状況
- ツキノワグマの特徴・生態
- 現在実施中の取組
- 今後の取組

【船木室長（左京区）】

通報件数は昨年並みだが、10月は通報件数が7件と多く、うち4件が大原地域に集中・連続しており、大原小中学校付近で目撃されて地元では非常に危機感が高まっている。

従来から24時間体制で通報を受けており、行政機関、地域内の学校等施設、獣害対応関係者、適宜地域等へメールやFAXで情報共有を行い、必要に応じてチラシやポスターによる注意喚起や花火による追い払い、捕獲檻の設置の対応を行っている。

追加の対策として、大原地域での捕獲檻の設置を京都府林務事務所と調整中。

その他、左京ボイス（市民しんぶん左京区版）に注意等の記事を掲載予定。防犯ブザー、クマ鈴、撃退用スプレー等を購入し出張所へ配備予定。

【小泉室長（右京区）】

住宅地でツキノワグマが目撃された宇多野地域では、10月30日に捕獲檻を設置済みで、檻の周辺にはカメラを設置し監視中。

また、付近住民へのチラシ配布やポスターの掲示、府警防犯メールでの周知や、当該地域の学校へも情報提供し、登下校時の見守りを兼ねて広報車両による注意喚起を行っている。

この件について、区役所職員は出沒場所に出向く際に不安を抱えながらも命懸けで対応している。市民の安全を確保するために動いている職員の気持ちを少しばかり、おもんばかっていただければ幸いである。

【関室長（教育委員会事務局）】

目撃情報の連絡を受け、花背山の家では、所外活動（登山）を取り止め、所内での活動に切り替え、所内・目撃現場等ツキノワグマの痕跡を含む安全点検を現在も継続中。年内は所外活動（登山・ハイキング）を中止し所内活動に振替える。クマ対策用品（クマ鈴、クマ撃退スプレー、ホイッスル等）を常備している。

10月28日に、学校に対する注意喚起及び出沒時の対応についての通知を発出した。今後、山間部の学校を中心にクマ対策用品を配分予定。

【猪田政策監（産業観光局）】

野生鳥獣の被害については、農林振興室、地域自治推進室、区役所等で連携して取り組んでいる。ツキノワグマに関しては、少しフェーズが変わってきている中で、速やかに対応していく必要があり、市街地に出沒した場合の対応について必要な見直しを行ったうえで、しっかり連携をしていきたいと考えている。

◆本部長（副市長）指示

【岡田副市長】

本年、全国的に多くの地域でクマが住宅地に侵入し、人身被害が増加している。

もともとツキノワグマは臆病で、クマ鈴やラジオの音を鳴らせば気付いて避けていくというのが常識だったが、意識を変える必要がある。

先ほど、対策については説明があり、関係局区からも報告があったが、まずはツキノワグマが人の生活圏に近づかないようにすることが第一である。

そのうえで、住宅地へ出沒する個体についてはやむなく捕獲する必要がある。

多くの京都市民の方も不安に感じておられ、この会議をきっかけに関係機関の連携を深め、市民や観光客の皆さんの安心安全を守れるように、緊張感を持って対策を進めていきたい。これにより、ツキノワグマを「正しく恐れる」ことを促していきたい。ツキノワグマは土日関係なく出沒するので、職員においては、休日などの連携体制、それと関係機関との連携も改めて確認していただきたい。

今の時期、冬眠前のツキノワグマが一番活発に行動する時期なので、市民の安全・安心を第一に考え、対策を進めていく。

（他の自治体において、）対応に当たった職員が被害に遭っているというケースも聞いているので、十分に準備したうえで対応してもらいたい。